次期学習指導要領 教科別まとめ　高校 No.06

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

芸術

次期学習指導要領で、どう変わる？

思いをもつことから表すまでを、一続きの学びに

高校版



10秒でいうと　Ⅰの科目で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける。書道は字形等を〔共通事項〕に

やさしく言うと

高校の芸術科は、音楽・美術・工芸・書道から科目を選んで学びます。次期は、どの科目でも「芸術そのもの」について考える機会を設ける方向です。Ⅰを付した科目（選択必履修科目）の最初に芸術の全体像や学ぶ意味を考え、まとめでは探究的な学習を行う例が示されています。書道は、字形などの具体的な指示を〔共通事項〕に整理する方向です。

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 芸術のポイント　4つ
2 主な変更点　9項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 高校の科目と単位
5 授業時数
6 生成AI・ICTとの付き合い方　3項目
7 今からできる準備チェックリスト　7項目
8 次期を先取りする授業アイデア　1本
9 現行の学習指導要領・解説（高校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

芸術（音楽・図画工作・美術・書道等）の3行要約（全校種）

1. 思いをもつ・発想する段階と、工夫して表す段階を切り分けず、一続きの「思考・判断・表現」として育てる形に整理する方向です。
2. 小学校音楽の「歌唱」と「器楽」が「歌唱・器楽」にまとめる案など、区分の統合や具体的すぎる記述の見直しで、授業の組み立てが柔軟にする方向です。
3. 高校芸術科では、どの科目を選んでも芸術の全体像や意味を考える時間を設け、評価は複数の題材をまとめて総括することもできると示されました。

1 芸術のポイント

4つ

1 Ⅰの科目の最初に「芸術とは何か」を考える

高校芸術科は内容が各科目の専門に寄りやすく、教科として目指す「芸術との関わり」が意識されにくいとされました。そこで、Ⅰを付した科目の導入で、芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける方向です。教科書も、芸術そのものと各科目の学びを結び付ける構成が期待されています。P217 P219

授業では、たとえば 音楽Ⅰの最初の時間に、身近な広告やゲームの音楽を例に「芸術は生活のどこにあるか」を話し合う、といった導入が考えられます。

2 科目のまとめに探究的な学習を

科目のまとめの段階などで、芸術分野に関わる探究的な学習を設定する例が示されています。身に付けた力をもとに、芸術の意味や価値を追求するねらいです。自分や社会にとって芸術がどう関わるかを重視し、将来の芸術文化との関わりを自覚できるようにする方向です。P217

授業では、たとえば 美術Ⅰの終わりに、まちの公共空間にあるアートを調べ、「まちにアートがある意味」を発表する探究が考えられます。

3 書道は〔共通事項〕で柔軟に

書道では、字形や全体の構成などを分野ごとに具体的に示していました。次期は、それらを〔共通事項〕の「書を構成する要素などの働き」として整理し、柔軟に指導できるようにする方向です。線質・字形・構成などが生む「書の表現性」を重視し、鑑賞の技能も明確にします。P216 P219

授業では、たとえば 同じ言葉を、線の太さや字形を変えて何通りか書き、印象の違いを話し合ってから作品の構想を決める、といった授業が考えられます。

4 社会とのつながりと、過程を見る評価

高校芸術科の目標は、作品のメッセージ性や社会への影響力なども意識できるよう改善する方向です。美術では、多様なメディアと関わらせて発想や構想をすることも示されています。評価は、複数の題材をまとめて総括できることや、制作の過程の姿を捉えることが示されています。P214 P216 P221

授業では、たとえば 映像作品の制作で、途中の構想メモや試作を端末に記録し、完成作品と合わせて評価する、といった進め方が考えられます。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜芸術（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

2 主な変更点

9項目

1. 小 中 高 発想・構想から工夫して表すまでを、まるごと「思考・判断・表現」に

これまで図画工作・美術・工芸では、発想や構想は「思考・判断・表現」、材料や用具を使って工夫して表す段階は「技能」と分けていましたが、両者は続いていて違いが分かりにくいという課題がありました。次期では、発想・構想から工夫して表現するまでの流れ全体を「思考・判断・表現」として示す方向です。音楽（習得した技能を生かして工夫して表現する過程全体）や書道（構想・工夫して表現する過程全体）も同じ考え方です。P212 P214 P216

2. 評価：題材ごとに全観点を記録しなくてよい。複数題材でまとめて総括も可

短い題材でも3つの観点すべてを記録に残そうとして、総括的な評価ばかりになる実態が指摘されました。そこで、年間指導計画を踏まえ、複数の題材や単元、区分をまとめて総括的評価をしてもよいことが示されました。学習の途中で行う形成的評価（指導に生かす評価）を重視し、「思考・判断・表現」は完成作品だけでなく、歌ったり作ったりする過程の中での姿でとらえます。他者と比べるのではなく、一人一人のよさや成長を肯定的に評価することも重視するとされました。P221

3. 高 高校芸術科：どの科目でも「芸術そのもの」を学ぶ時間を設ける

高校芸術科は音楽・美術・工芸・書道から選んで学びますが、内容が各科目の専門に寄り、教科として目指す「芸術との関わり」が意識されにくいという課題がありました。そこで、Ⅰを付した科目（選択必履修科目）の最初の段階で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設け、まとめの段階では芸術分野に関わる探究的な学習を行うなどの改善が示されました。教科書も、芸術そのものについて考えることと各科目の学びを結び付けられる構成が期待されています。P217 P219

4. 小 中 高 図画工作・美術：学びの方向が分かる新しい区分と〔共通事項〕の見直し

活動そのものが目的になり、育てたい力があいまいな指導が見られるため、学びの方向性が分かる区分で整理する方向です。例として、小学校図画工作は「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」、中学校美術は「自分と美術」「生活や社会と美術」が挙げられています。〔共通事項〕（表現と鑑賞の両方で働く事項）には、造形の働き、美術の働き、美術文化、工芸の伝統と文化に関する事項を示す方向です。技能は、材料や用具の特徴を生かして使うことや表現方法を追求することとして示す方向です。P215 P216 P219

5. 小 中 高 鑑賞にも「技能」を示す（図画工作・美術・工芸・書道）

鑑賞の活動を充実させるため、作品から特徴を見付けたり情報を読み取ったりする「鑑賞の技能」を示す方向です。書道では、作品や書から読み取った情報を精査することなどが鑑賞の技能になります。鑑賞を通して育てる力をはっきりさせ、表現と鑑賞を行き来する学びにつなげるねらいです。P216 P219

6. 小 中 高 音楽：知識と技能を一文で示し、「身体の使い方」を重視

子供が技能の必要性を感じ、実感を伴って理解できるよう、知識と技能の関係をはっきりさせて一文で示す方向です（「自分でやってわかる」ことが前提）。歌唱や器楽では、いろいろな歌い方や楽器に対応できる技能として身体の使い方を重視する方向です。音楽づくり／創作は小・中・高のつながりを明確にし、中・高の鑑賞は内容の取扱いと重なる記述を整理する方向です。P216 P219

7. 高 書道：字形などの具体的な指示を〔共通事項〕の「書を構成する要素」に整理

これまで漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書と鑑賞のそれぞれで、字形や全体の構成などを具体的に示していました。次期では、それらを〔共通事項〕の「書を構成する要素などの働き・関係」としてまとめ、学校の実態に応じて柔軟に指導できるようにする方向です。「思考・判断・表現」では、線質・字形・構成などが生み出す「書の表現性」を重視し、自分の意図に基づいて創造的に表現することを示す方向です。P216 P219

8. マンガ・アニメ・ゲーム・映像など、多様な芸術や文化の学びを充実

メディア芸術（映画、漫画、アニメーション、コンピュータ等を使った芸術）や舞台芸術など、多様な芸術や文化に触れる機会を、芸術系教科だけでなく教育課程全体で充実させる方向です。図画工作・美術・工芸では端末を使った漫画・アニメーション・映像などの表現や鑑賞、発表・展示を発達の段階に応じて充実させる方向です。特別なソフトウェアがなくても、端末の撮影・記録や描画・加工といった基本機能で実践できることが望まれています。P218

9. 生成AIは「ツール」として。表現の過程を安易に任せない

デジタル学習基盤の活用には生成AIも含まれますが、表現する過程を安易に生成AIに任せることは適切でないとされました。人間ならではの感性や身体性を土台にした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが求められます。また、子供が芸術に関する様々なコンテンツに触れる機会が多いことから、発達の段階に応じて知的財産の保護と活用に関する指導を充実させる方向です。P221

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
図画工作・美術・工芸の「思考・判断・表現」と「技能」の線引き	発想や構想をする段階は「思考・判断・表現」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けている。	発想や構想をし、**工夫して表現するまで**のつながり**全体**を「思考・判断・表現」として示す。P212 P214
書道の指導事項の示し方	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書と鑑賞のそれぞれの事項で、字形や全体の構成などを具体的に示している。	〔**共通事項**〕で「**書を構成する要素**などの働き・関係」として整理し、学校の実態に応じて柔軟に指導できるようにする。P219
高校芸術科で学ぶ内容	選択した科目の専門に関する内容が中心で、教科目標の「芸術との関わり」が意識されにくい。	Ⅰを付した科目の導入で芸術の全体像や学ぶ意味を考え、まとめの段階で芸術分野の**探究的な学習**を行うなど、「**芸術そのもの**」を学ぶ機会を設ける。P217
学習評価（総括のしかた）	短い題材でも3観点すべてを評価しようとして記録に残す評価だけになったり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価したりする実態がある。	複数の題材・単元・区分で**まとめて総括的評価**をしてもよい。**形成的評価**を重視し、思考・判断・表現は**学習の過程**の中の姿でとらえる。P221
高校芸術科の標準単位数	音楽Ⅰ～Ⅲ、美術Ⅰ～Ⅲ、工芸Ⅰ～Ⅲ、書道Ⅰ～Ⅲ各2単位	同じ12科目で各**4新単位**とする案。必履修の芸術（Ⅰの科目）は**減単不可**とすべきとされた。P47 P80 P82

4 高校の科目と単位

科目構成（音楽・美術・工芸・書道の各Ⅰ～Ⅲ）は現行のままとし、標準単位数は各2単位→各4新単位とする案（単位の数え方の変更による。P80・P82）。科目ではなく内容面で、Ⅰを付した科目の導入やまとめの段階に「芸術そのもの」を学ぶ機会を設ける方向（P217）。

5 授業時数

小・中学校の音楽・図画工作・美術の具体的な時数は本文に示されていない（総論では、新教科・領域の時数を確保するため小3以上の教科等から一律3～4%程度を減じるが、現在35コマ以下の教科等からは減じないとし、具体の数値は今後示すとしている。P79）。高校は各科目4新単位とする案で、必履修教科ごとの合計が3新単位以下になる減単は不可のため、芸術（音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰのいずれか）は減単不可とすべきとされた（P47）。

6 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. AIの進化の中での芸術の意義

AIの進化などで正解のない問いに向き合う力が求められる中、人間の本来的な能力として芸術の学びの意義が改めて示されています。P212

2. 生成AIも使うが、表現する過程を安易に委ねない
デジタル学習基盤の活用には生成AIも含みますが、表現する過程などを安易に生成AIに任せることは適切ではないとされています。発達の段階を考え、人間ならではの感性や身体性をもとにした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが重要です。P221

3. デジタルの効果的な活用
鑑賞での作品比較・意見共有・遠隔交流、表現での試行錯誤や記録・保存などに、デジタル学習基盤を生かします。漫画・アニメーション・映像などのメディアによる表現や鑑賞も充実させ、特別なソフトがなくても撮影・描画・加工などの基本機能で端末を活用することが望まれています。P216 P218 P221

7 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 年間指導計画を見て、短い題材ごとに3観点すべてを記録している所を洗い出し、複数の題材・単元・区分をまとめて総括する組み合わせを検討します。P221
- [ ] 今すぐ 歌ったり作ったりしている途中の姿を写真・録音・録画で残す仕組みをつくり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価しない形に近づけます。記録は学校・教育委員会の情報セキュリティ方針に従い、承認済みの学習用フォルダに閲覧者を限って保存し、顔や氏名は必要以上に記録せず、保存期間が過ぎたら削除します。校外に公開する場合は、本人・保護者への説明と同意、著作権・肖像への配慮を経て行います。P221
- [ ] 告示まで 図画工作・美術・書道の鑑賞で、作品から特徴を見付ける・情報を読み取るといった「鑑賞の技能」を、どんな姿で見取るかを教科会で言葉にしておきます。P216 P219
- [ ] 告示まで 生成AIの扱いについて「表現する過程を安易に任せない」「使うならツールとして」という線引きを教科内でそろえ、他人の作品やキャラクターを扱うときの知的財産の指導も題材の中に位置付けます。P221
- [ ] 告示まで 地域の文化施設や専門的な人材との連携を見直し、どの資質・能力を育てるための連携かを学校側で明確にしてから、年間計画に位置付けます。P220
- [ ] 先行実施まで 端末の撮影・記録、描画・加工といった基本機能だけでできる漫画・アニメーション・映像の題材を1つ開発し、校内展示やオンラインでの発表の場もあわせて計画します。P218
- [ ] 全面実施まで 高校では、音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰの導入で芸術の全体像や学ぶ意味を考える時間と、科目のまとめで芸術分野の探究的な学習を行う時間を、年間計画の中に試行的に設けます。P217

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜芸術（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

8 次期を先取りする授業アイデア

1本

高1（音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰ） 1単位時間（50分）

これも芸術？身の回りから描く「芸術マップ」

駅のサインも和菓子もゲームの背景も。並べて比べて、芸術の広がりと自分との関わりを考えます。

手順・ワークシート

ねらい

身の回りのさまざまな表現を比べて芸術の広がりを捉え、芸術と生活や社会、自分との関わりについて考え、この科目で芸術とどう関わりたいかを言葉にする。

流れ

5分 写真カードを配り、一人一人が「芸術だと思う順」に並べます。正解はないこと、直感でよいことを伝えます。

12分 4人グループで並べ方を見せ合い、「なぜこれを上位にしたか」「なぜ迷ったか」を出し合います。先生は机間指導で「作った人の意図はあるかな」「生活の役に立っているかな」など、判断の観点を言葉にするよう促します。

13分 グループで軸を2本決め（例：「生活の中⇔特別な場」「昔から⇔新しい技術」）、紙や共有ボードにカードを配置して芸術マップをつくります。小・中学校で経験した合唱、版画、書写、鑑賞などもカードに書き足して置きます。

10分 ギャラリーウォークで他グループのマップを見て回り、自分たちになかった軸や配置に付箋でコメントを残します。先生は、選んだ軸の違いから見えてくる芸術の役割（伝える、心を動かす、文化を受け継ぐ、新しい技術と結び付くなど）を全体で整理します。

10分 振り返りシートに、自分の科目（音楽Ⅰなど）とマップのどこがつながっているか、この1年で芸術とどう関わりたいかを書きます。シートは保管し、科目のまとめの段階で読み返すことを伝えます。

評価

導入の時間なので記録に残す評価は行わず、振り返りシートの記述から一人一人の芸術への関心や見方を把握し、以後の題材の指導に生かします。年度末のまとめの探究で同じシートを読み返し、見方の広がりを生徒自身が確かめられるようにします。

9 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 音楽編 美術編**
https://www.mext.go.jp/content/1407073_08_2.pdf

PDF **（付録6）教科の目標，各科目の目標及び内容の系統表（高等学校芸術科）**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_25_1.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る